

高次脳機能障害の評価と介入 ～Clinical Reasoning～

誠愛リハビリテーション病院
澁 雅子

Introduction

1. 高次脳機能障害に対する最近の動向
 - ・高次脳機能障害支援モデル事業（H13～）
 - ・起算日／早期リハビリテーション加算
 - ・算定日数制限／除外規定 高次脳機能障害支援普及等（H18）
 - ・医師が効果があると判断したら（H20）
 - ・神経科学の発展
2. 高次脳機能障害とは
 - ・学問的背景：神経心理学と認知心理学 神経生理学
 - ・社会体制との関連～行政用語～
 - ・高次脳機能の障害の本質を探る
 - ・診断としての理解と介入のための解釈
3. 急性期／回復期／維持期（生活期）
対象疾患：脳血管疾患／外傷性脳損傷／低酸素脳症／認知症

高次脳機能障害とは 支援モデル事業より

1. 脳の器質的病変の原因となる事故による受傷や疾病発症の事実が確認されている。
2. 日常生活または社会生活に制約があり、その主たる原因が記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害などの認知障害である。

平成13年度開始された高次脳機能障害支援モデル事業における脳損傷者のデータ分析の結果、記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害などの認知障害を主たる要因として、日常生活及び社会生活への適応に困難を有する一群の存在
この一群が示す認知障害を「高次脳機能障害」、有する人を「高次脳機能障害者」と呼ぶ

高次脳機能障害の概念

広い概念：
脳の比較的高位に位置する領域の損傷によって生じる行動および認知機能の障害

狭い概念：
最近わが国は特定の疾患、特定の症候群を示す概念とし、定められた診断基準を満たす患者群に使用される診断名

山鳥

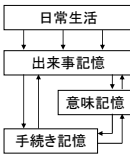
基盤的認知能力の障害

<意識の障害>
個体が外から入ってくる刺激や内部から上がってくる刺激に気づく能力
〔睡眠／覚醒〕 〔覚醒の明るさ／広がり／深さ〕

<注意の障害>
意識内容（気づきの対象）を鮮明にする働き
選択性／持続性／転導性／分配性／感受性

<記憶の障害> 登録／把持／再生
①陳述記憶（イメージ化できる記憶）
概念の記憶（意味記憶）／出来事の記憶（エピソード記憶）
②手続き記憶（イメージ化できない記憶）

<感情の障害>



個別的行動・認知能力の障害

<知覚性認知能力の障害>
求心性神経の脳へ伝えられる感覚情報の処理障害によって生じる知覚性対象認知障害－視覚／聴覚／体性感覚

<空間性能力の障害>
空間認知能力／空間内行動能力
視覚：空間性注意／定位した対象に手を伸ばし到達する／視覚的注意を空間的に変えていく／複数個の対象を同時に認知する／対象の立体視
視覚／聴覚／体性感覚

<行為能力の障害>
行動：環境に対する個体の全体的な動き **行為：**特定目的遂行のための道具あるいは身体部位の操作能力 **運動：**関節の屈伸など肢位の空間移動

<言語能力の障害>
理解／発話／復唱／想起（呼称／喚語）

統合的認知能力の障害

<左右半球の情報統合の障害>

大脳半球離断

左右手の能力解離／左右視野の能力解離

各半球の統合能力

左半球：言語機能などのシンボル処理—意識化される

右半球：空間的、枠組み的—意識化されにくい

<前頭前野の統合的認知能力の障害>

まとまりのある認知能力を生成する

情緒反応／人格／意思・判断／

複雑な注意・記憶・認知・行動／遂行機能

Bottom up

- 機能障害の評価
- 高次脳機能障害の列挙
- 高次脳機能障害とADL障害のマッチング



? 1対1対応

? 多くの高次脳機能障害の存在

? ADLって分割できるの

Top down

- ADL障害—活動障害／参加障害の評価
- できるorできない／しているorしていない



個人因子・環境因子の視点

でも個人因子・環境因子って何？

ADLの構成要素（コンポーネント）は？

高次脳機能が関連した構成要素って？

Clinical Reasoning 臨床推論

- クリニカルリーズニングは評価の実践に不可欠な要素であり、評価で見つけたことを解釈するのに求められる。
- 臨床実践で使われるクリニカルリーズニングの過程は、知識の使用とメタ認知技能を伴った問題解決を結合することであり、熟考の過程を含んだ認知と知識の間の要素の統合である。

(Higgs and Jones 2000)

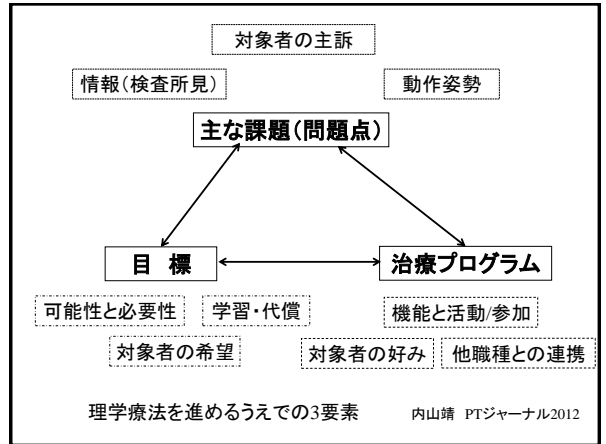
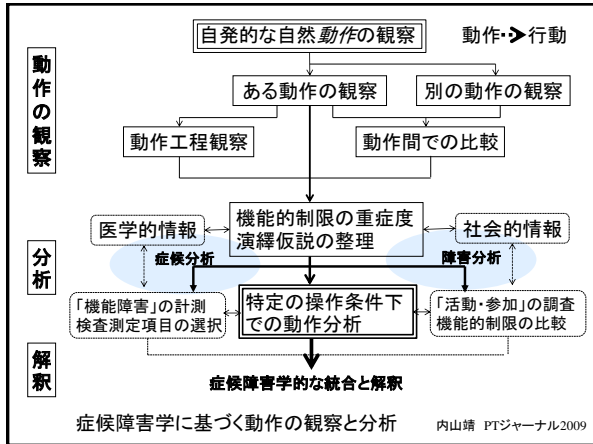
Clinical Reasoning 臨床推論

- 対象者の訴えや症状から病態を推測し、仮説に基づき適切な検査法を選択して対象者に最も適した介入を決定していく一連の心理的過程を指す。
- この過程は気づきとともに経験や知識に基づく論理的思考による鑑別と選択の連続で、仮説を検証する工程を繰り返している。
- Reasonには、わけ、背後の理由、根拠、推理、分別、理屈などの意味がある。

肉山靖 PTジャーナル2012

CRの双方向過程モデル

- 分析的思考
網羅的な検査を行い科学的な指標を基にした忠実な過程
- 直観的思考
経験を蓄積したパターン認識や感覚的な気づきから推論を強力に進めていく思考過程



作業療法評価とは

- 患者が何に困っているのかの把握
- 困難と困惑の原因を探るために
観察 → 検査手順を整え検査の実行
◎トップダウン ×ボトムアップ

- 患者、介護者へのインタビュー
- 日常生活の観察
- 検査: 手順を考える。困難を理解できたら終了。失われたものと残存しているものを見極める。
- 評価の総括: 解釈 - 妥当性は介入によって決定される

録音

高次脳機能障害をどのように捉えるか？

個別に捉えられるか

ADL・IADL・社会的活動とどのように関連するか

- いわゆる神経心理学的診断に対して
- 個別にとらえない ex 視空間失認と身体失認
- 効果的な介入は？

背景となる脳の障害をどのように捉えるか？

脳を理解する

中枢神経疾患患者のADLと高次脳機能障害

- 典型的な高次脳機能障害がADLを阻害する
- ADLの基礎となる構成要素(機能)感覚-運動への高次脳機能障害の影響
- 損傷後のADL再学習(再獲得)における高次脳機能の影響
 - 障害を持った、以前とは違う自己
 - 以前の自己における運動記憶(ADL)

新しい学習 古い記憶の修正(認知・行為)
身体失認・失行
身体図式の再構築・運動(パターン)の学習

↓

個々のおかれた環境の中で

